

# 川崎病院通信

<http://kawasaki-hospital-kobe.or.jp>

2010年2月発行  
発行責任者 病院長 市原 紀久雄  
編集責任者 久保 裕也

〒652-0042 神戸市兵庫区東山町3丁目3番1号 TEL: (078) 511-3131



Vol. 1

## “川崎病院通信” 発刊にあたり

2010年がやってきました。2000年、ミレニアムの節目を迎えてからもう10年も経ちました。この10年を振り返って見ると、一時は景気がゆっくりと回復期基調にあるといわれて、明るい兆しを感じることはありましたが、1 昨年のアメリカ発の世界同時不況のあおりで、暗い10年のように感じます。特に医療界は総医療費削減政策の影響で、希望の持てない10年でした。病院においても医療収入の伸び悩みとコスト上昇による経営危機や勤務医の減少による「医療崩壊」にさらされての、苦難の10年であったということが言えます。

この間、私たちの川崎病院も多くの危機的状況の直面しながらも、開業医の先生方や患者さんに支えられて、何とか地域医療の一角を守りとおすことができたと自負すると共に、大変感謝しております。

この10年間、川崎病院は少しずつ診療機能を変化し、医療情勢や需要に対応して参りました。当院は医療崩壊のあおりを受け小児科や産科の廃止など診療機能を縮小せざるを得ませんでした。他の科は次第に充実することができました。形成外科も新設されました。整形外科も一時、医師が減少し危機的な状況にありましたが、昨年夏より新しいチームと交代し、診療内容は見違えるほど充実いたしました。おかげさまで、地域の先生方からの新規の患者さんの紹介率はこの2年間は40%を超えております。多くの患者さんをご紹介いただき、感謝しております。

今まで、当院の診療体制の変更や新規医療機器の導入などのトピックスは当院の広報紙「ほほえみ」で地域の先生方にお知らせして参りましたが、患者さんと同じ情報の提供では専門家の先生方には不足の部分や失礼なところもあるのではないかと危惧しておりました。そこで、今般は医療機関の皆様方に向けた情報誌「川崎病院通信」を発刊し、先生方への正確な情報を提供してゆきたいと存じます。

この「川崎病院通信」を多くの先生方に読んで頂き、診療のお役に立てることを祈っております。



院長  
市原 紀久雄

## New整形外科について “一般” と “小児” “スポーツ” の整形外科

昨年6月整形外科医師が全て入替わりしました、部長の戸祭（トマツリ）医師は打撲・捻挫・骨折などの外傷、加齢疾患・骨粗鬆症・関節リウマ・痛風・運動器の腫瘍・先天性異常などの一般的な整形外科疾患の殆どに対応する事ができます。

特に「小児整形外科」「手の外科」「スポーツ医学」を得意としており(18年間ガンバ大阪のチームドクターをしていました)、遠方からスポーツ選手や子供たちも来院しています。現在通常の診察日とは別に、第1・3・5土曜日の午前中にスポーツ外来を行っております。

当院、循環器内科は充実しております

365日、24時間体制で救急循環器患者の受入れをしています

循環器科部長 丸山貴生

### 循環器救急のお受入れ手順

日勤帯：地域医療連携室もしくは循環器医師に直接ご連絡下さい。078-511-3133（地域医療連携室）

夜間帯：病院代表にお電話いただき「循環器医師を」とご指名下さい。078-511-3131（病院代表）

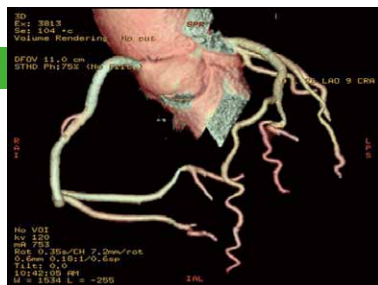
循環器科では、動脈硬化性疾患、特に虚血性心疾患に対する冠動脈造影、経皮的冠動脈形成術（風船治療・ステント留置術、PCI）をはじめ、心不全・心臓弁膜症・心筋症・不整脈などの各種心臓血管系疾患の診断・治療を行っております。急性心筋梗塞などの急性期虚血性心疾患に対しては、緊急心臓カテーテル検査、PCIを積極的に実施しています。以下に当科の特色をご紹介します。

### ①救急診療体制

当科では、川崎病院全体の当直医とは別に、専任の「心臓血管センター当直医」が常駐し、365日・24時間体制で救急診療体制をとっております。常に救急ベッドを確保しており、常時救急患者様の受入が可能な体制を整え、緊急カテーテル検査に対応しております。

### ②「冠動脈CT」を活用した冠動脈疾患診療

最新のCT器材が導入されるとともに「冠動脈CT」検査を開始し、件数は年間500件程度で推移しています。患者様に侵襲の少ない冠動脈画像診断法として定着しました。CT検査枠を拡充し、毎日検査枠を設定しております。その他、非侵襲的な検査法として従来より心筋シンチグラフィ、心臓超音波検査も実施しており、検査件数も安定し、連日検査枠を設定しています。



### ③カテーテル検査・冠動脈形成術

昨年、最新の血管造影装置を導入し、冠動脈CTからカテーテル検査、PCIに至る症例数が大きく増加しています。PCI件数は平成20年度には従来の2.5倍と急増しました。検査・治療は患者様への侵襲が少ない手首の動脈からの実施を原則としており、また検査入院は3日間の短期入院となっております。



### ④下肢閉塞性動脈硬化症(ASO)に対する診断・治療

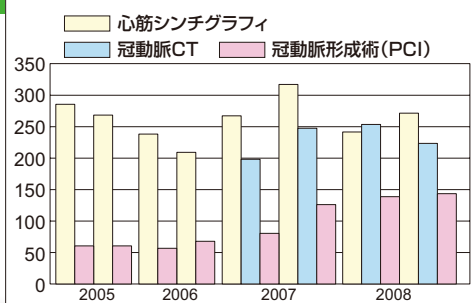
下肢動脈の超音波検査・CT・MRIなどの低侵襲検査から血管造影検査、さらにはステント治療まで幅広い診療を行っております。下肢動脈ステント治療件数は平成18年度14件から平成20年度74件と急増しました。

### ⑤スタッフ

当科で昨年より循環器科医師を増員し、この1月からも更に1名を増員いたしました。それに伴い診療も1診制から2診体制に増やしました。外来診察枠及び検査枠については別表をご覧ください。

以上、循環器科では積極的な救急受入をおこなっておりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

循環器科検査・治療件数の推移(半年毎集計)



### 循環器内科新任医師

循環器科部長

西堀 祥晴

にしほり よしはる

生年月日：S44/12/24

### メッセージ

倉敷中央病院より赴任してきました。患者さんの立場に立った医療を心がけてまいりますので宜しくお願いいたします。

### 資格

日本内科学会認定医・日本内科学会総合内科専門医・日本循環器学会専門医・日本心血管インターベンション学会指導医